

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 聖祥会
事業所名	グループホーム ゆうかり
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町5400番地1 (電話) 099-244-5481
自己評価作成日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人に属し、かわもと記念クリニックの敷地内にあります。医療的なニーズに対応しやすく、緊急時は在宅医師や訪問看護から医療を受ける事が出来ます。集中的な治療が必要な場合は、当クリニック内の病棟に入院する事も可能で、毎日の様子を見に訪問したり、訪問が出来ない場合は内線で情報交換することが出来ます。ホーム内は高い天井と広々とした空間でゆっくりと過ごすことが出来ます。敷地内に庭や畑があるので、散歩がてら季節の花々を見る事が出来たり、季節の野菜を収穫する事も出来ます。法人内の企業主導型保育園の園児の散歩コースになっているので、触れ合いを持つ事も出来ます。普段の面会は勿論ですが、看取り時期は時間に左右される事なく面会が出来たり、宿泊する事も出来ます。最期の時まで大切なご家族と共に過ごせるよう配慮致します。入居者の皆様のお気持ちを大切に、なるべく自立支援に繋がるような援助を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所の法人母体が医療機関で同敷地内にあり、24時間医療連携体制で入居者の月2回の訪問診療と半年に1回の検査で健康チェックを行い、適切な医療を受けられるよう支援し、家族の安心に繋がっている。
- ・家庭的な雰囲気の中で管理者や職員は利用者によく声かけし、気分に寄り添う支援をしている。
- ・コロナ感染5類移行後、人数や時間制限はあるが居室での面会や外出支援では家族の協力でお寺参り、家族と一緒に自宅で食事をする等の交流を大切にしている。
- ・敷地内に庭や畑があり、散歩時に季節の花を眺めたり、旬野菜の収穫見物、法人内の企業型保育園児との交流を楽しんでいる。また、庭に出て別棟に遊びに出かけ、お茶飲み等を楽しめるような支援をしている。
- ・法人代表や管理者はサービス向上やスキルアップのための研修を実施し、職員は日々研鑽している。また、管理者は随時、個人面談を行い相談があれば対応し、働きやすい環境作りを心がけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全ての理念を実行出来てはいないが、近い支援は出来ていると思う。毎朝、申し送り後に1個/1日理念を唱和している。	理念や努力目標を事務所に掲示し、ホームページや重要事項説明書に掲載している。毎朝、申し送り後に唱和し共有して支援している。月単位の努力目標を決め毎月ミーティングで振り返り、法人の役員会議で書面で報告し、年度末に理念に沿って振り返り実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス5類移行後は、ボランティア慰問も受けている。近隣の保育園が慰問に来てくれたり、同じ敷地に畑も提供しているので、収穫時期も交流がある。	ホーム行事の敬老会やクリスマス会ではボランティアを受け入れたり、近隣の保育園児と散歩時の挨拶や野菜収穫時の交流等もあり、ハロウィンでは踊りの披露がある。近隣住民から花や野菜等のおすそ分けもあり、日頃から言葉を交わし交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	今後、新しい場所に移転する事をきっかけに、地域交流の場としてうたい、認知症についての理解を求めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>1回/2カ月に実施となっているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催を中止し書面での伝達としている。内容を書面で送付し、回答は電話にていただいている。</p>	<p>会議は定期的に書面での報告だったが、コロナ感染5類移行後は対面で開催し、入居者状況や年間行事予定・外部評価調査予定等を報告している。意見の反映とし法人母体で認知症サポーター養成講座を前向きに検討し、当事業所が少し離れた場所に移転することも入居者や家族に丁寧に説明していく計画である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村との連携については、運営推進の報告や、生活保護を受けている方の情報交換や諸報告、また認定調査時の訪問を受けている。</p>	<p>市担当者とは窓口に出かけ、書類申告や事故報告等を行い、生活保護担当者の年2回の訪問では利用者との面談や管理者から生活状況を報告したり、必要時は電話で相談し情報共有しながら、連携・協力関係を築いている。市主催の研修には対面やウェブで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施錠は行っておらず職員の見守りで認知症の皆さんを支援している。帰宅願望や徘徊される方はいないが、今後そのような症状のある方に必要であっても、施錠しないことはグループホームの基本であることを理解したい。ただ、スタッフが一人になる時間帯は防犯上施錠している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し勉強会も資料を用いてスピーチロック、虐待について等を学んでいる。関わりの中で気になった時、声かけ指導やミーティングで正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はせず、外出しそうな場合は一緒に外に出て散歩支援している。センサーマット使用時は家族の許可を得て、定期的に意見交換し記録している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会を設けている。自身の心情やその時の状況により発した言葉がスピーチロックに当たらないかは十分に注意していきたい。自分だけでなく、周囲のケアに対しても注意を払っていけるようになりたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について深く学ぶ機会を多く持っていない。日常生活自立支援事業と成年後見人制度の違いなど学び、認知症である入居者様にとって必要である制度ということを理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については管理者が代表して行い、契約書に基づき丁寧に説明している。特に金銭面やお看取りについては、何度も説明し間違いのないよう十分注意を払っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族にはいつでも意見や要望を言ってもらえるよう声掛けを行っている。ご意見があった場合は、管理者、スタッフ間で共有し可能な限り反映させている。玄関にご意見箱の設置も行っている。	利用者からは日常生活の中や夜間帯・呼ばれて居室でゆっくり意見や要望を聞いている。家族には、ゆうかり便りを毎月写真と担当者が現在の状況を一筆書きし一緒に郵送報告している。意見や要望等法人内のツールで全員に送信し反映させている。アンケート調査や家族会を開催し意見を聞く機会も予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃からの意見や、ミーティングなどで職員の意見を聞き取っている。また、経営会議などで、必要に応じて理事長へ報告し、対応を検討している。</p>	<p>管理者は毎月のミーティングや申し送り、日常のケアの関わりの中で声かけして意見や提案を聞き、ユニットリーダーも共に聞き話し合っている。個人面談も随時行い、相談にも対応している。シュレッダー等の備品購入に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>スタッフの満足度をはかったことはないが、一般的な水準は満たしているのではないかと思う。向上心は損なわないよう、外部研修の機会をもち、資格取得についても協力している。職場環境を良好保てるよう支援したい。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>理事長は学ぶ事を大事にしている。スキルアップの為に、外部研修や資格取得に前向きな姿勢を応援している。個々のスタッフが参加したいと望むものには、快く了承している。また研修内容も共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>理事長は他事業所との交流を応援しているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、それが出来にくい状況である。最近はグループホーム同士でSNSのグループを作り、情報共有出来るように検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境からのスタートである為、その方を知る努力をし、適度な距離感を保ちながら気持ちに寄り添い、少しでも安心してもらえるような信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスが開始される段階で出来る範囲の情報収集に努め、ご家族の不安が解消されるようなケアを目指している。面会時は、出来るだけ安心材料となるような情報をお伝えするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメント時の支援が本人に合っているか？職員間で再アセスメントし、サービスが適正か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を心掛けるべきだが、どうしても介助をする側の対応が重くなっている。出来るだけご自身で出来る事はお願いし、協力頂けた時は、感謝の気持ちを伝えることを忘れないようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族の想いを大切にしながら、スタッフでは補えない家族の絆の部分の担ってもらっている。ホームでの様子を情報共有し支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス禍で関係が保ちにくい状況であった。5類になったことで、ご家族以外の交流も出来る事を伝えていき、外出の機会も持っていただきたい。	コロナ感染5類移行、人数と時間制限があるが居室での面会を大切に、電話や手紙・はがきの取次、買い物支援をしている。ラインで動画やメッセージを送り関係性が途切れない支援や持参のスマホで自由に会話されている。2ヶ月毎の馴染みの訪問理美容で整髪支援し、家族の協力でお寺参り等の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や年齢等に配慮し、互いに交流出来るよう支援している。必要に応じてスタッフが間に入り、全体で関係作りが出来るような支援にも取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、何か困り事があればいつでも訪ねて来ていただけるような声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の意向などは会話の内容で把握したり、ご家族からの情報を元に把握している。困難時は生活歴や性格から、なるべくご本人の意向に添えるように支援している。	日々の会話の内容や入浴時、夜勤帯、居室やフロアでゆっくりされている時声かけして思いや意向を聞いている。困難な場合、表情や行動等、入居時の生活歴やホームでの元気な時の生活状況を基に職員間で意見交換や面会時に家族に相談しながら意向に添える様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームへ入居されたことで不安や喪失感に苛まれないよう、なるべく本人の希望に近い環境作りを行っている。また、日頃の会話から汲み取れることもあるので、聞き逃さない様にした		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の有する力に合わせた過ごし方を提案しているが、残存機能を維持していただく為にも、活動することが苦手な方にも出来ることを提案している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態に合わせてケア内容を検討している。病状に関する事は医師の指導も仰ぎ、多職種連携を元に、適切な方法を選択している。ご家族には丁寧に説明しており、必要に応じて電話連絡を行う等適宜、合わせた対応をとっている。	本人や家族の意見や要望を聞き、主治医の意見、職員の意見、必要時は薬剤師や訪問歯科医の意見を取り入れ担当者会議で意見交換し、特技など反映し介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、見直している。状況変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の経過記録を、日中と夜勤者で細かく記録している。他スタッフ視点の気付きやケア内容を知る事が出来るので、介護計画や支援方法に活かされていることが多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本、型にはめない生活が送れるように対応している。個人で違う事が多いので、その時々状況に応じて、柔軟性のある対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の一つである医療とは協働が強い。福祉用具貸与なども必要に応じて活用している。認知症カフェなどに参加する機会をもっていないので、活用したい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医との連携が図れるように説明し、在宅診療部との密な連携を図っている状態に応じて受診し、必要な検査を行っている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、母体医療機関が主治医となっている。月2回の訪問診療と半年に1回の検査で健康チェックしている。24時間医療連携体制で適切な医療を受けられる。希望時は訪問歯科医の週1回の診療がある。皮膚科の往診や他科専門外来受診時は家族同伴または職員同伴で支援している。結果は電話で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護・介護の専門性を理解し、常に相談、報告する体制が出来ている。必要に応じて指示を受け、適切な対応が出来ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>法人内のクリニックに入院されることが多い。入院前のサマリー提供で細かい情報伝達を行い、医療面に関しては看護師が中心になり対応している。コロナ禍で病棟に行けない時も、内線で状態確認が出来ていた。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化になられた時、終末期と医師より診断を受けた場合は、スタッフ間で情報を共有し、方針に添った対応を行っている。ご家族も含め入居者様の状況を把握し、無理のない自然な形の最期を迎えられるよう支援している。</p>	<p>入居時に重度化や看取り介護についての方針に基づき説明し同意書を貰っている。状態変化時に主治医から家族に状況説明があり、家族の意向を確認し、チームで支援に取り組んでいる。看取り事例もあり、家族の宿泊時、ソファや寝具を準備しグリーフケアにも対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>有事の際は、対応方法や連携方法等、施設内に掲示しているマニュアルを元に動いている。看護師を中心に訓練し、実践力の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2回/年 防災訓練を昼夜想定で実施している。1回は消防署の分遣隊にも参加していただき、指導を受けている。法人全体で取り組むので、共助の体制がとれている。</p>	<p>年2回法人全体の協力体制で防災訓練を昼夜想定で実施している。消防署立会では火災想定で通報訓練・初期消火・駐車場までの避難訓練を実施している。自主訓練は防災機器点検業者参加で実施し年2回の設備点検も実施している。地域住民に防災訓練1ヶ月前に資料を配布し声かけしている。備蓄は水・ご飯・おかず・カップ麺・缶詰・味噌汁・ふりかけ等の食料品とカセットコンロ・懐中電灯等を準備している。法人内で事業継続計画（BCP）を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心掛け支援を行っている。目の前の行動だけに捉われず、その方の行為の元になる思いを汲み取れるようになりたい。個人への理解を深める事で配慮出来ている状況もある。	法人主催で講師を招いて接遇研修や事業所でも毎月勉強会を開催し権利擁護や個人情報保護法について学んでいる。入室時はノックや声かけし、排泄時や入浴時は羞恥心に配慮し、ドアやカーテンを閉める等の配慮した対応をしている。呼称は苗字で呼び、衣類等は選択できる環境を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には、なるべくご本人の意思に添った対応をしている。自己決定出来ない方には、性格や生活歴から予測し、寄り添った支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務を優先してしまうことがある。ただ、そうしないといけないことも理解しながら、出来る範囲で入居者様の希望に添った日々が送れるよう、支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	おしゃれや身だしなみには十分配慮している。毎日の更衣や定期的な理容、整容など身綺麗にすることで、その方のらしさを失わない様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを一緒に行う事は少ない。食べる事を楽しみにしている方は多く、調理担当を中心に、目で見て楽しめる色合や、季節の食材を使った献立など、工夫をしている。	その日の職員担当者が季節の食材を使って調理し、食形態は利用者の嚥下状態で提供しヨーグルトも出している。代替食での提供もある。おせち等の行事食、誕生会にケーキでお祝いし敬老会にはプレゼントもあり、楽しめるよう工夫している。もやしの根切りやジャガイモの皮剥き、後片付けで台拭きを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量とのチェックを行い栄養不足、脱水にならないよう注意をしている。ご飯でなくてもパンやおはぎ風のおにぎりなど、いろいろと試しながら食べられるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導を受け個別に合った口腔ケアを行っている。なるべくご自身でしていただき、口腔スポンジや、舌ブラシ、歯間ブラシを使って、丁寧な仕上げの口腔ケアを心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の力を活かした排泄支援に取り組んでいる。基本的に重度の方も含めトイレでの排泄を試みている。トイレでの排泄を促せるポジショニング等も個々に合わせている。オムツ使用の方は、時間や排泄パターンに合わせて交換し、清潔に注意している。	排泄チェック表でパターンを把握し、声掛けの音量に配慮しトイレでの排泄支援をしている。2人介助でトイレ誘導する事で排便が容易になった事例がある。自立の人には見守り支援をしている。排泄用品はリハビリパンツに個々に応じて大小の尿取りパットを使用している。夜間ポータブルトイレ使用もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は心の乱れになる事を理解している。なるべく水分摂取を進め、本人の飲みやすいものを無理なく提供している。乳製品などを主にし、排便を促す食品を取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の希望に全て対応出来ていない。曜日と時間帯は設定し、その中でゆっくり入浴したい方は、歌を歌うなどご自身のペースで気持ちよく入浴出来るよう配慮している	週2回、午前中に希望の時間帯に応じ湯温も調整している。同性介助の対応もある。季節のゆず湯等も楽しんでいる。拒否がある場合、時間をずらしたり声掛けの工夫をして支援しているが無理強いせず翌日にする場合もある。体調がすぐれない時は全身清拭の支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールの自席で傾眠がある方は、居室で休んでいただいている。ベッドに敷毛布を敷いたり、使い慣れた毛布や枕を持ってきていただくなど声掛けしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護スタッフが全て理解しているわけではないが、なるべく既往歴と内服を照らして理解したい。服薬については、その方のレベルに合わせた服薬の仕方となっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、壁画作りなど、個々の能力を発揮出来るような支援に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>戸外に出かけるというと、天気の良い日に散歩に付き添って、季節の花々や、畑の野菜を話題に取り入れている。普段は行けないような場所に行く時は、季節のドライブなどになるが、人員に余裕のある時は、個別で外出する等の対応が出来ることが理想である。</p>	<p>年間行事計画は作成している。天気の良い日に散歩やウッドデッキで日光浴や外気浴を楽しんだり、敷地内にある棟に遊びに出かけお茶飲みしている。ホームの農園で旬野菜等収穫見学や企業型保育園児の散歩コースとなっており交流を楽しんでいる。家族の協力でお寺参りや外出支援している。クリスマス会ではボランティアを受け入れマジックショーで楽しめるよう工夫している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人で金銭管理を行う事が難しい。また、外出してお金を使うということも難しい。ただ、入居者様が欲しい物や、食べたい物があるとされた時は、一緒に出掛けられる支援をしたい。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持っている方には、定期的にお電話出来るよう支援している。また、ホームの電話を使用し息子さんへ電話したり、お手紙を出されることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な混乱や刺激には注意を払っている。時期の花々や壁画を飾ることで、季節を感じてもらったり、四季折々の行事も取り入れている。1人1人の要望は違い、日差しを好む方もいれば、嫌う方もいる。カーテンの使い方1つでも工夫が必要である。	フロアの天井が高く窓も大きくウッドデッキもあり、開放的で明るい。換気も定期的に行い採光もカーテンで調整し、エアコンで過ごしやすい環境を整えている。畳の間がある。壁には利用者の書き初めや塗り絵が飾られ、対面式のキッチンで見守りができ、利用者も新聞を読むなどそれぞれが居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の空間は居室内と考え、皆で過ごす際に、入居者様同士のトラブルに発展しないよう席を検討している。居心地が悪くならない環境に心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるように、これまで住んでいた自宅に近い状態になるよう工夫したり、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。（寝具類、整容に使うもの、日用品、箸やお椀など）	居室は電動ベッド・タンス・エアコンがあり、寝具類はリースであるが持ち込みも可である。使い慣れた手鏡やテレビ・仏壇・時計・家族写真・ぬいぐるみ・孫の作品等が飾られている。小説本や毎月購読の本もあり、居心地よく過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール全体に手摺が設置してあり、安全に移動が出来るようにしてある。トイレや浴室にはわかりやすく目印があり、日付カレンダーで毎日の日付確認が出来るようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない